

2000年におけるアメリカ経済：未来への挑戦

アメリカ経済は現在、急速でかつ持続された成長の伸びを経験している。実際、アメリカ経済は30年以上にもわたって、世界の中で最も有力な地位を確保している。アメリカ経済が成長した一つの理由は、何年にもわたって信じられないほどの雇用の増加である。例えば、1960年から1990年の間で、労働力（7千万人～1億4千万人）と代金を貰える仕事についている人（6千5百万人～1億3千4百万人）の数は二倍となった。

1995年から1999年の間で、インターネットとそれに関連した情報技術（IT）はアメリカ経済全体の成長の中で3分の1を占めている。それ故、アメリカ経済が成長しつづけている一つの原因は、インターネットの爆発的な成長であるのだ。

経済の成長を考えれば、企業収益も上昇しているということが分かる。また、経済が持続的に成長しているために、消費者信用はとても強いものとなっている。消費者信用の指数は2000年1月に、今までに無い高い数字、144.7を記録した。経済の成長ゆえ、30年間にもわたって、失業率は今までの中で、最低の水準を実現している：2000年4月で3.9%、同年5月で4.1%。企業利益が上昇しているために、家計収入も急速に上昇していった。

消費者だけが経済を信頼しているわけではない。経済が持続的に成長しているため、企業投資も非常に盛んであった。したがって、機械設備や環境設備への新しい投

資、ITと情報伝達の新技術への投資がたくさん行われている。このようなことが、経済を再構成していったのである。

経済指標は持続しているが、将来にはその経済の伸び率はわずかで遅いものになってしまうだろう。家の売り率、財の注文率、建築の許可の割合は低下し始めている。失業者の主張、勤務時間への批判も増加してきている。しかし、消費者による消費と株式の購入は引き続き、強いものである。

アメリカ経済がこれほどまでに強くなったのには、もう一つ別の理由がある。労働生産性である。労働生産性が持続的に改善されてきたため、アメリカ経済は印象的な成長を持続することが出来たのである。アメリカの労働（機会）費用は上昇していないということは、企業は価格のインフレーションを引き起こすことなく、給与を増やすことができるということを意味している。